

文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

— 3年「間の数」(啓林館) について —

(注：ページ番号は，平成 27 年啓林館のものであります。問題文は著作権の関係で掲載できません。お手数ですが，教科書を参照してください。)

下 p.94 ① $a + \square + b = c$ の問題

[$c - a - b \Leftrightarrow c - (a + b) =$ の問題] (加減結合応用)

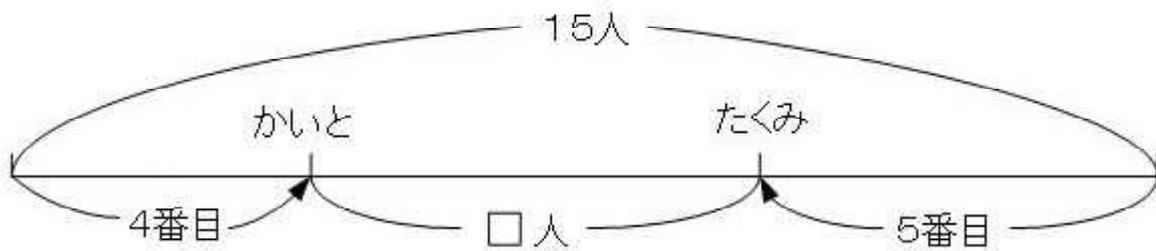
2 年下 p. 99 ③の $a - 1 + \square = b$ の問題 と，本時の $a + \square + b = c$ の問題

とを比べることで，次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

2つの向きから，2人(こ)の人(もの)を何番目と数える時の，間の数のもとめ方を考えよう。

図



式 ・ $15 - 5 - 4 = 6$

答え 6人

・ $15 - (5 + 4) = 6$

答え 6人

まとめ

2つの向きから，2人(こ)の人(もの)を何番目と数える時の，間の数をもとめるには，ぜんぶの数から2つの何番目になるかをしめす数をじゅんにひいたり まとめてひいたりする。

下 p.95 ③ $a \times (b - 1) =$ の問題

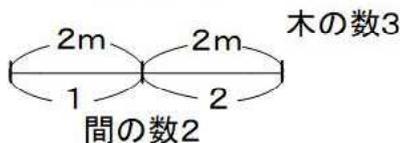
2年下 p.7 ③の $a \times b =$ の問題 と、本時の $a \times (b - 1) =$ の問題 とを **比べる** ことで、
 次のような **一般化された めあて** をつかむ。

めあて
 間の数が分かっていない時の、ぜんぶの長さの もとめ方を考えよう。

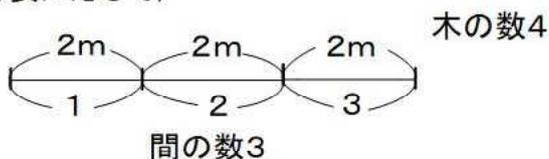
図1



図2



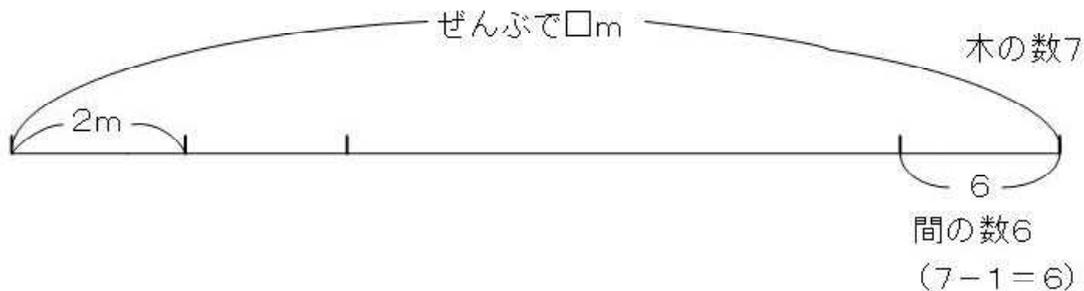
(図3 必要に応じて)



(図1, 図2, (図3) と変化のきまりを調べて, 間数は
 (ならびの個数 - 1) であることに気付く。)

(めあてを振り返って, ならびの個数が大きくなっても ならびの個数と
 間数の関係を分かりやすくする必要があるので, 図4にかき直す。)

図4



式 $2 \times (7 - 1) = 12$

答え 12 m

まとめ
 間の長さが分かって, 間の数が分かっていない時の, ぜんぶの長さをもとめるには, まず (ならびの個数 - 1) によって間数をもとめておき, 次に 間の長さに 導かれた間数をかける。